

5 現代のフロンティア、ヒューストン

5.4 アメリカ南部とメキシコの旅

私は日本を出る時、持ってきた不可能かもしれないと思っていたアメリカでの夢、目的も達することが出来たと思った。、将来どうするかというはっきりした新たな具体的な目的はなかったが、とりあえずカリフォルニアに移る準備を



キンベルミュージアム、ルイス・カーン設計、1973年、フォートワース市、シンプルなコンクリートの打ち放しのディテールと空間構成が美しく、常にやわらかい間接光が天井から入ってくる。

しようと思った。テキサスに長く住むつもりはなかったの、よく旅行してテキサスの街々を訪れた。オイルで豊かになった州であるから、大きな街、ダラス、フォートワース、ヒューストン、オースチン、そして、サンアントニオの街々に有名な建築家達によって設計された、沢山の良い建物があった。1978年の秋には、2週間程のパケーションをとって、南部の州を車でひとまわりすることにした。北部は Yankee Country、南部は Dixie Land Country と呼ばれ、南北戦争



ウォーターガーデン、フィリップ・ジョンソン設計、1977年、ダラス。ダイナミックな滝のプラザ、噴水のプラザ、水のエレメントの彫刻が造られプラザ、テキサスの暑い夏に安らぎを与えてくれる。

に負けた今でも、南部人は強いプライドを持っている。この旅は主として南部の古い街や建物、それに、自然を見ることにした。ニューイングランドの街々とはだいぶ異なる、それにまだ人種差別が根深く残っている。それは、アジア系の人達も同様に黒人系に属される時もある。南部の田舎のあるレストランに入った時、それ程混んでいなかったにもかかわらず、薄暗い片隅に座らされた“あの窓際に座りたいのですが”と言うと、“あの窓際の席は予約されています。”と言われた。予約をとる程のレストランでもないのにと思った。しかし、私の考えすぎかとも思った。その差別となった奴隷制度に栄えた街々、建物を見学しようと思った。テキサスからアーカンソー州を抜けて、テネシー州に入った。カントリーミュージックの本場、ナッシュビルである。テネシー州は自然が美しく、日本の大手の工場や会社がこの辺に沢山建てられている。わかる様な気がする。四季があって、大変美しい。特に、よく霧がかかっているスモーキーマウンテンと呼ばれる山脈は、新緑と紅葉が大変美しく見事なものである。

ジョージア州やノースとサウスカロライナ州やアラモの砦、サンアントニオ、テキサス。メキシコとの戦いで1836年、最後の砦となった所、西部の英雄、デビッド・ロケットらが最後まで戦い続けた。この時、テキサス軍は全滅した。

ダラス市庁舎、I.M.ペイヤー設計1977年。この建築もコンクリートのディテールが美しい。プラザに面した外壁が30度傾いてキャノピーの役割をし、プラザでの暑いテキサスの直射日光を遮る役割をしている。





テネシー州の開拓時代の教会、四季の自然に囲まれた素朴な建築

イジアナ州は、奴隷時代にコットンやタバコで財をなした州であり、プランテーション時代の家は昔のままに残っていた。



ミシシッピー川沿いに建つ、南北戦争以前に栄華を誇ったプランテーションハウスとオークツリーの並木道、ルイジアナ州

イギリスやヨーロッパの影響を強く受けているチャールストンやサバナの街々や古い家々は、よく綺麗に保存されていた。ノースカロライナに残るアメリカの財閥が建てたビルテモアハウスはフランスのルネッサンス時代の大きなお城そのものであった。この旅行はだいぶ気軽なものであった。カーラジオでカントリーミュージックを聴きながら鼻歌交じりのドライブをしたが、自然と闘うことになった。フロリダ



南北戦争以前に建てられた奴隷の粗末なレンガ造りの小屋がアメリカの歴史のヒトコマとして残されていた。ジョージア州

のアルデコの建物やケネディースペースセンターなどを見学して、帰路に着いた頃、巨大な強風を伴ったハリケーンが徐々に北上してきた。私達はハリケーンの進路を避けて、スケジュールを変更したが、ハリケーンも同じ様に変更してきた。アラバマ州のモービル市に来た頃にそのハリケーンの直撃を受けた。泊ったホテルには大きな被害はなかったが、ほとんどの電柱が見事になぎ倒された。細長く伸びた木々はことごとく、ポッキリという感じで折れていた。停電が長く続き、ガソリンスタンドには電気がこなく、農家で使うディーゼルエンジンをガ

ソリンスタンドのポンプにつなぎ、自動車には給油されていた。私もやっと給油できたが、ガソリン代は2倍以上に跳ね上がっていた。そして、やっとニューオーリンズの街に着いた。ミシシッピー川の河口のデルタ地帯で特にこの辺は海面よりも低い地域である。この時のハリケーンは、雨が少なく強風であったのでニューオーリンズには被害は少なかった。土地が海面よりも低いため、この辺の墓はほとんど地面の上に、石で作られた小さい家のようになっていた。奴隷で栄え、ジャズが栄え、フランスの建築の影響を強く受けた地域である。シーフードが美味しく、ガンボというスープが美味しかった。車の故障以外は大きな事故もなくヒューストンに戻った。

フランスの文化の影響が強いニューオーリンズの街

ニューオーリンズの地上に埋葬されているお墓





メキシコ山岳都市のお祭りに偶然に出会った。カラフルな民族衣装や異様な仮面が大変印象深く残った。

そのほかに建築視察の旅は1979年のメキシコであった。テキサスの国境からメキシコに入ると、比較的時間をかけずメキシコ市に行く。



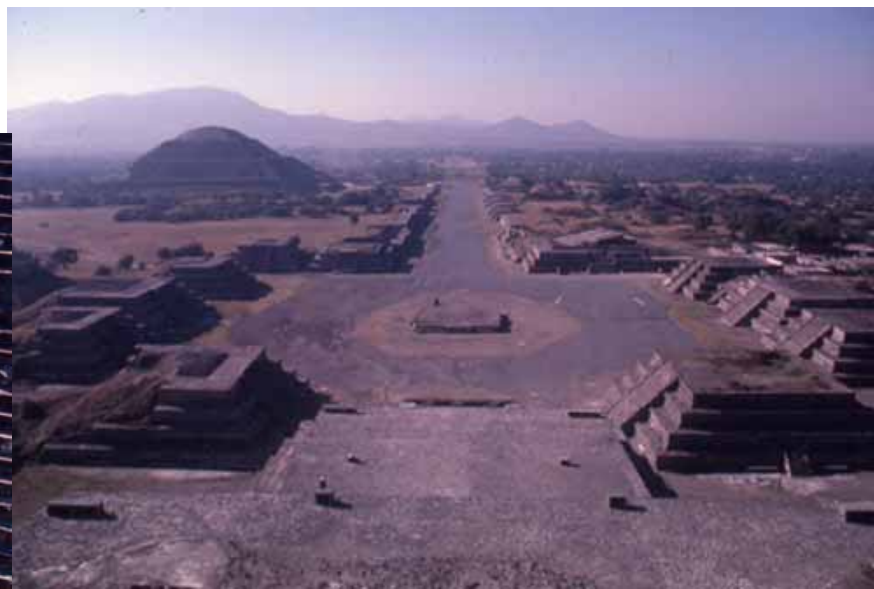
メキシコ市へのフリーウェーのエントランス モニュメント、ルイス・バラガン設計

それでも、イタリアの山岳都市を思わせる山村を見ながらの旅だったので、車で片道丸3日かかった。ちょうど秋のお祭りのシーズンだったのかいろいろな衣装や仮面を付けてのお祭りをしている村々をいくつも通過した。スペインのミッシン建築の影響が強かったがそれよりも高地と言うこともあってか、赤や青などの鮮やかな衣服はもちろん、建築にもその鮮やかさがあった。この鮮やかな色を好むのは太陽の紫外線が強く、自然の花も鮮やかなものが多く、雨も少なく、透き通るような青空が毎日のように続くこの地ではすべてが自然の色にマッチするように色が建物までに影響してくるのかと思った。この鮮やかな色を好むのは中南米の高地に住む少数民族や中国のチベット辺りに住む少数民族もまったく同じである。

メキシコの建築家の巨匠ルイス・バラガンや、カンデラ、リカルド・ロゲリッタの建物を主に見て廻った。強烈な太陽の光、猛暑、真っ赤な花、それに赤茶色の土が記憶に残っている。建築家バラガンやロゲリッタが強烈な赤やピンクの色を使って建築を造るのが分かる気がした。又、メキシコの山岳都市やピラミッド等、歴史的な建築物も見たが、ヨーロッパの中世の建築とはひとあじ違う荒々しさがあった。メキシコのピラミッドはエジプトのものに比べるとはるかに小さいがピラミッドの配置となる南北に走る軸となるものが明確であった。又沢山の細かく彫られた動物の頭がそのピラミッドを守るかのようにピラミッドの周りに取り付けられていた。それは太陽と関係が密接であり、日時計やいろいろなモザイクタイルがそれを意味している。古い大きな建物にはよく見かけられた。メキシコ大学の中心となる建物に太陽にまつわるモザイクタイルでの壁画がぎっしりと埋め尽くされていた。

最大のメキシカンピラミッドの頂上からの眺望、大小のピラミッドが沢山あり、太陽への軸となる南北の軸となるアクセスが明確になっている。

ピラミッドを守るかのようにたくさんの猛獣の頭の彫刻がピラミッドの角々に付けられてあった。これらのピラミッドは紀元前1500年頃から建て始められたと言われている。





メキシコ大学図書館棟、ホセ・オーゴマン設計、1953年
メキシコ古代から現代まで纏わる太陽、文化、自然のグラフィックのモザイクタイルの壁画の建物

キーティングに話した。“テキサスは、どうも私の性に合わないの、カリフォルニアへ行こうと思っている。”すると、所長は“もう少しサラリーも上げるし、良いポジションにもつけるから、ここに残れ”と言った。私は“いや、どうしてもカリフォルニアに行く”と言うと、“サンフランシスコのSOMへ行け”と言う。“いや、どうしても私はロサンゼルスに行くつもりだ”と言うと、所長は“SOMのロサンゼルのオフィスは、まだ新しいし、良くない”と言った。しかし、私は、“どうしてもロサンゼルスへ行く”と主張した。

所長は言った。“お前はクレージーだ！仕方がない、ロサンゼルのSOMに転勤させてやろう”と言ってくれた。私がアメリカに最初に着いたのは、サンフランシスコで、そこでは何もかもうまくいかなかった。私がサンフランシスコを選ばなかったのは、そのアメリカに来た当時の、心理的な、ネガティブな感情を思い出さずからであろう。しかし、そればかりではなかった。私はSOMで一生働くつもりがなかった。将来、もしアメリカに残るなら、私は出来るならば自分の事務所を設立したいとも思っていた。サンフランシスコの街は小さいが、ロサンゼルの街は大きく、チャンスも多いはずだと思った。ロスにはまだ開発の余地があり、アジアの玄関口として将来のフロンティアという気がする。だから将来のためにも、私はロサンゼルスへ行きたかったのだ。

サムライ・アーキテクトが西部に行くということで、カウボーイ・アーキテクトや、SOMの同僚達が、カウボーイ・バーで、テキサス・スタイルの大きな送別パーティをしてくれた。カウボーイハットをかぶり、ジーンズをはき、それにカウボーイブーツをはき、そしてメカニックブル(電動で動くメタルで作った牛)に乗せられた。私はサムライカウボーイになってしまった、これ以上飲めないというほどビールやテキーラを飲んで、大騒ぎをした。アーバン・カウボーイのスタイルが流行していた頃のことである。若き日の最後の破目はずした思い出である。私にとってはテキサスは大変楽しい所であった。

www.kiparchit.com



スペイン風のミッションの建築とメキシコ市の中心のプラザ

71階建ての超高層ビル設計もほぼ終わりに近づいてきた頃、私は所長のリック・



メキシコの日時計

アデオス・テキサス

